

令和5年8月15日

瀬戸内市議会議長

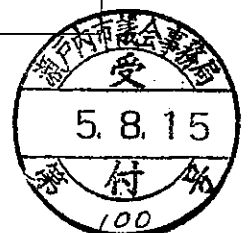
小谷 和志 様

瀬戸内市議会議員 厚東 晃央

### 政務活動費研修報告書

政務活動費を使用して、次のとおり研修活動をしましたので、その結果を報告します。

期間	令和5年8月2日(水)
研修会名	おかやまSDGsフェア2023
開催場所	岡山コンベンションセンター(岡山市北区駅元町14-1)
研修内容	<p>シンポジウム 「西日本豪雨から5年。子ども達と共に災害支援を考える」 岡山NPOセンター</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・災害支援ネットワークおかやまの立ち上げの経緯や現在の活動の報告</li><li>・災害や災害支援にはSDGsの視点が必要である</li><li>・災害が起こらないようにすることと、被災した場合は、なるべく早く復興することが大事である</li><li>・西日本豪雨災害当時中学1年生だった子どもたちの被災の話やボランティア体験談</li><li>・学習塾をしていた方が塾に通っていた子どもたちの家庭を中心に子ども達と共に支援など実施した体験談</li></ul> <p>ゲストトーク&amp;トークセッション 「みんな参加型の循環型社会」 岩元 美智彦氏(JEPLAN会長)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・みんな参加型のリサイクルに取り組めるようにしていくことが重要である</li></ul>



	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんな参加型の取り組みは「正しい」だけでは、広がらない</li> <li>・みんな参加型の取り組みにするためには「わくわく」「どきどき」と思えることが必要になる</li> <li>・日本の循環型社会は世界一と言われている →プラスチックおもちゃのリサイクル状況</li> <li>・地上のごみを資源にかえて循環型社会をつくるのが大事である</li> <li>・循環型社会をつくることの一番大事なことは戦争をなくすことである</li> </ul>
所感	<p>SDGs の観点で、災害支援を考えることはまさに循環型社会の実現に不可欠であり、5 年前の豪雨災害時を振り返りながら災害支援を考えることは必要なことである。当時中学生だった子どもたちが被災地域に住んでいたが自分自身が被災していないので、何かできないかと動き出す話には心を打たれた。</p> <p>それぞれの年代で情報収集の方法も違う。特に災害時の情報収集は SNS が普及した時代なので、若い世代と連携して実施する事ができれば、多くの世代に情報を届けることができる可能性がある。</p> <p>わが市でも邑久高校との連携が進んでおり、今回も邑久高校と市が連携したブースを出していた。こうした自治体と協働した SDGs の取り組みの実施は不可欠であると感じた。</p> <p>また、みんなが参加していくことの重要性を強く感じたが、また難しさも感じた。わが市でもごみ削減の政策を 10 数年おこなっているが、目標達成とはなっていない。環境問題の意識を広げることとそれに伴う行動をすることはとても難しい。しかし、今後の世界規模の持続性、循環型社会を考えたときには避けては通れない道である。わが市ではゼロカーボンにも取り組み始めたところである。議会、委員会を通じ、議論し、高めあい、みんなで参加型の循環社会の実現に向けて取り組みたい。</p>